

病院・地域

# 秋厚労ニュース

NO1883号

2018年12月6日

秋田県厚生連労働組合

秋田市山王5-4-2

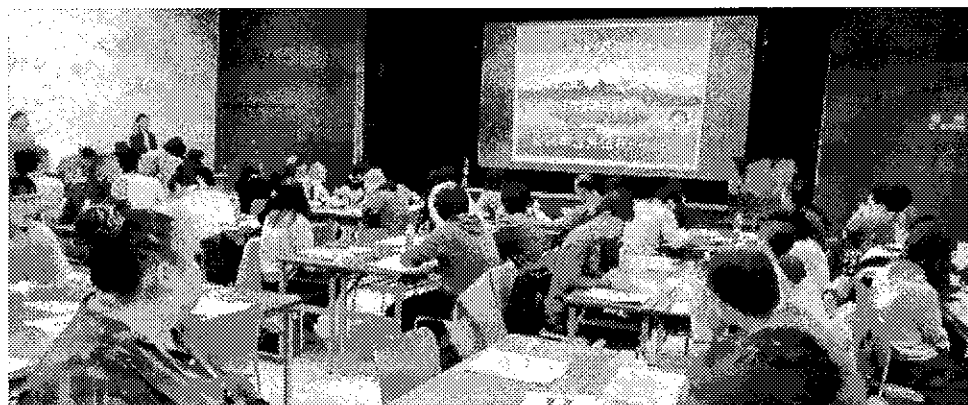
TEL 018(864)3341

FAX 018(864)3349

# 問題の根源は同じ

全厚労第35回  
医療研究集会

去る11月16日(金)～18日(日)、静岡県・静岡市民文化会館にて第35回全厚労医療研究集会が開催され、全体で121名(秋厚労6名)が参加。テーマ「離職が止まらないのはなぜ?一緒に考えよう地域の未来」のもと、「働きがいある職場」「暮らし続けられる地域」をどうやってつくるのかを考えました。



## 財界が儲けるための政策によるものの

全厚労医療研究集会は、社会保障費の抑制など、大きな政策の変化に対応するために1983年(昭和58年)に始まり、35年間運動を積み上げてきました。

### 職員は働きがいを

#### 見出しにくい

学習特別報告は、「秋田県鹿角地域で、住民とともに運動して学んだ医療労働者

としての教訓・課題」を、秋厚労本部専従の鈴木土身さんが行いました。

「医療現場は、患者さん

よりも病院の儲けを優先しなければならぬので、職員が働きがいを見出しにくくなっている。職場全体が苛立ち、働きにくいので離職が止まらない」と話しました。地域も、市町村合併による学校・病院の統合、大企業が進出し地元の産業が衰退などで住みづらく人口が流出しています。病院・地域の問題は根源が同じ。財界が儲けるための政策と解説しま

## 病院の経営方針は地域にも影響

学習特別報告の合間に、4～5名のグループで意見交換をする時間が設けられていました。あるグループでは「患者・家族からのクレームに対応するため異常に記録が多い」「病院給食を委託した会社が地元から食材を買わないので店が潰れた」などの話が出されました。それに対して「テレビドラマとは違うので、

した。

### 鹿角で医師を

#### 求める運動広がる

一方、鹿角の医師を求め住民運動は、「住民の会が始めた医師を求めるチラシが、県・市・町・病院を含め5者連名になった」「精神科外来は県内外の医師による応援診療に支えられた」など住民自ら医師を求める運動が広がったことを紹介。「病院ではなく地域の問題として捉えたのがポイント。ここで働きたい、住みたいと思うような地域をつくるのが大事」と運動の

## 地域や病院は議論しながらつくる

集会のまとめでは、「医療研究集会での学びは地域に帰って活かすことが大事です。住みたいと思う地域をつくるために、思いっきり悩んでください」と呼び

### 賃上げは地域住民と一緒に

分科会は4つのテーマで開催されました。最終日には各分科会から「賃上げは病院の中だけだと限界。地域住民と一緒にやるべき」「目標をもつことで働きがいを見出すことができる」「病院祭に多くの人にきてほしいので小学校4年生でも理解できるチラシを作っている」「災害時のトリアージ訓練を地域の人と実施。真剣さは地域からの信頼につながる」などの報告がありました。

住民に医療現場を知らせないといけない」「病院の経営方針は地域にも影響する。ました。

かけがありました。3日間を通して、やりがいを持って働き続けられる職場や住み続けられる地域は、一人一人が悩み議論しながらつくるものだと感じました。

教訓を参加者に伝えました。